

### 中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

#### 学校教育目標

南本小の子  
ともに明日をつくる子  
楽しみ学び続ける子

#### 教育課程全体で 育成を目指す資質・能力

<言語能力>  
<自分づくりに関する力>

#### 具体化した資質・能力

「思いや考えを伝え合う力」「多様性を尊重する力」「他者を理解する態度」  
「合意形成する姿勢」「メタ認知する力」「思いや考えを表現する力」「思考するための言葉の力」「振り返りの習慣」「協調性」

#### 中期取組目標

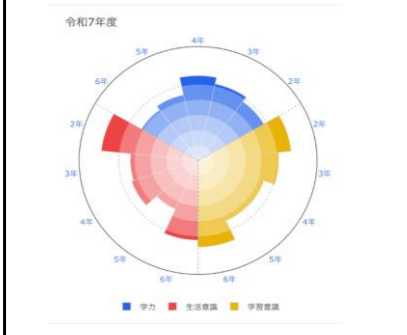
○全職員が「チーム南本」として、言語能力や自分づくりに関する力を育む教育に取り組むとともに、子ども一人ひとりの思いを大切にしたい学校づくりを目指す。  
・周りの人々と関わり伝え合う言語活動や、個別最適な学びを軸として、自分の考えを表現する力の育成をはかるようにする。  
・一人ひとりの子どもが自己有用感をもち、安心して楽しい学校生活を送ることができるようにする。  
・他者の考えを理解しようとする態度を養い、自分らしさを発揮しようとする。  
・家庭、地域との連携方法を工夫し、積極的な参画を得て、地域に愛される学校づくりを進める。

#### 学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
授業改善	引き続き、児童の考えの形成や表現にまつわる資質・能力を重視した授業づくりの実践を積み重ねる。個別最適な学びに向けた単元計画や学習活動、手立てについての理解を深めていく。
担当	学び部会

#### 学力向上に関わる本校の状況

令和7年度の横浜市学力・学習状況調査の結果によると、学力および学習意識は概ね市平均前後となっている。令和4年度からの経年変化を見ていくと、どちらも徐々に伸びてきている。  
これは国語科の重点研究で培った必要に応じて表現を工夫しながら互いに伝えたいことを伝え合う学習活動を他教科に広げて実現を図り、組織的に継続して取り組んできた成果であると考えられる。  
生活意識や学習意識では、市平均を下回る学年があり、学力との繋がりに希薄さを感じられる。日々の生活と関連付けながら学習を展開する必要性が見られる。体験的な学習を取り入れたり、学習形態を工夫したりして協働的に学ぶことのよさを感じられるよう授業改善を行っていく。  
また引き続き、様々な場面で自分の考えをもって自己を表現していくような子どもの姿を目指して、個別最適な学びの機会を保障し、個の学びを支えるための単元構成や導入を工夫しながら、学習意識や意欲を高められるようにしていきたい。



#### 今年度の目標

「自己表現力」「試行錯誤する力」「自己選択・決定力」を高めるとともに、他者の考えや思いを受け取り、自分の考えに還元する思考の習得を目指した授業実践

#### 目標を実現するための具体的行動プラン

**上半期**  
○個別最適な学びと協働的な学びを個が学習に合わせて選択・実行できるような単元を計画したり環境を整備したりする。  
○ICT機器を適切に活用することで学習のねらいを明確にするとともに、協働的に問題解決したり表現したりする機会を増やす手立てとする。  
○思考の「見える化」を通して、周りの人と関わりながら自分の考えをもつような学習に、より主体的に携われるようにする。  
○様々な学習形態や学習方法を体験したことをもとに、学び方や学ぶ場を自らの課題解決に向けて選択・決定していけるようにする。

**下半期**  
○個別最適な学びと協働的な学びを個が学習に合わせて選択・実行できるような時間を効果的に配置した単元づくりを進める。  
○ICT機器を適切に活用することで学習のねらいを明確にするとともに、協働的に問題解決したり表現したりする機会を増やすための手立てとする。  
○言語環境を引き続き充実させていくとともに、それを表現する場を設定していく。  
○子どもとともに課題設定のプロセスを考えていけるようにし、学習の内容だけでなく形態や方法にも目を向け、他の教科・領域や日常の場面とのつながりを図る。

### 豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野	具体的取組
人権教育	子ども会議のテーマをもとに人権について話し合い、自分も友達もかけがえのない存在として大切に、多様な価値観を認めたり支え合ったりすることで、子どもたちが安心して学べる学校づくりを行う。学年ごとの活動内容を児童の実態や発達段階に応じたものにし、系統立てて行う。
担当	児童指導部会

#### 豊かな心に関わる本校の状況

(1) 豊かな心に関わる児童生徒の実態  
昨年度までの児童用学校アンケートでは、「友だちの気持ちを考えて生活できている」「学習や運動が好き」と答えている児童が多い。児童に人を思いやれる心や、学校生活に対して前向きな姿勢が育ってきていることがアンケート結果にも表れていた。これまでの育ちを大切にしながら、豊かな心のさらなる育成を目指していきたい。  
(2) これまでの学校の取組状況  
昨年度は人権週間では、子どもたちの実態に応じて学年ごとにテーマを決めて行った。その後、各クラスの児童の感想を掲示することで、校内児童同士が意見の交流をした。数年間、継続して取り組んでいきたい。  
また、横浜子ども会議に向けて、運営委員会の児童を中心とした「あいさつ運動」を年間を通して行い、普段も自分から挨拶をし、友達と豊かな人間関係を築き、いじめの起きにくい学校風土の醸成に繋がっているよう取り組んできている。また、「みんながなかよく、いじめのない学校」にするために、毎月、学級ごとにめあてを立ててふり返ることをくり返し、優しい言葉遣いや思いやりの心などを育んだ。

#### 今年度の目標

道徳教育やたてわり活動などを充実させ、一人ひとりの個性を認め合い、自分の思いを安心して表現できる学校づくりを行う。また、さまざまな人とのコミュニケーションを図り、見方・考え方を広げようとする活動を充実させる。

#### 目標を実現するための具体的行動プラン

**上半期**  
○きょうだいグループ活動や幼稚園・保育園、中学校との交流を充実させるなど、異年齢との繋がりの場を多く設定できるようにカリマネを行う。  
○Y-Pアセスメントを年2回実施し、児童や学級の実態を多面的に把握する。課題改善に向けて学年やブロック、学校としての指導体制を整え、「だれもが」「安心して」「豊かに」過ごせる学級風土作りを目指す。  
○日々の道徳の授業において、授業での振り返りの時間を充実させ、児童一人ひとりの見方・考え方の広がりや深まりを目指す。  
○各学年の年間指導計画を活用し、他の教科領域をはじめ、全校で取り組む教育水田活動とも運動させながら取り組んでいく。

**下半期**  
○きょうだいグループ活動や幼稚園・保育園、中学校との交流を充実させ、思いやりやコミュニケーション能力を高めていく。  
○11月に2回目のY-Pアセスメントを実施し、「だれもが」「安心して」「豊かに」過ごせる学級風土作りに向けて、支援検討会を充実させ、必要に応じて児童へのチームでの支援を行う。  
○道徳の授業において、内容項目を自分事として捉えた振り返りとなるように考える時間を確保し、児童一人ひとりの見方・考え方の広がりや深まりを目指す。  
○上半期での取組を踏まえ、他の教科領域をはじめ、全校で取り組む教育水田活動と運動させながら、豊かな心の育成に取り組んでいく。

#### 健やかな体の育成プラン

重点取組分野	具体的取組
健康教育	子どもたちが楽しみながら安全に運動することができるよう体育科の授業改善を図るとともに、体育的行事や委員会活動などで、子どもたちのアイデアを生かした運営を目指す。
担当	特色部会

#### 健やかな体に関わる本校の状況

横浜市体力・運動能力調査結果で「学校の体育の授業以外で、運動(体を動かす遊びも含む)やスポーツをどれぐらうしていますか。」の項目を令和7年度と令和6年度で比べてみると、ほとんどの学年で、体を動かす機会が増えている子どもたちが多いことがわかった。  
コロナ禍では運動が制限されていたが、それがなくなり、体を動かす喜びを忘れていた子どもたちも、体育の授業や体育的行事、委員会活動などの取組によって、体を動かす楽しさを実感し、進んで運動するようになってきている。  
コロナ禍で学んだ感染症の恐ろしさを教訓としながらも、積極的に体を動かして運動を楽しむ経験も積み重ねて、子どもたちの健やかな体作りをさらに進めていきたい。

#### 今年度の目標

創立50周年に向けて子どもたちの思いや願いを基に、周年行事の活動をを進めていく。その中で子どもたちが活動を楽しみながら主体的に活動していけるようにする。そうすることで、愛校心を高めたいようにする。

#### 目標を実現するための具体的行動プラン

**上半期**  
○創立50周年を祝うため、子ども主体の活動を推進  
・PTAの実行委員会(事業部、式典部、広報部)と児童実行委員が中心となって活動を計画し運営していく。(式典・タイムカプセル等)  
○運動の特性を理解した授業改善  
・授業改善に向けて体育の研修を設定し、授業改善に努める。特に各種目における運動の特性を教師が理解し、主運動につながる慣れの運動を行うなど、活動の系統性を意識して、目標を達成していけるように授業計画を工夫していく。特に水泳指導では、安全管理を徹底していくように研修を行い、危機管理をしながら指導していく。  
○体育的行事計画への子どもたちの参画  
・後期の運動会に向けて、子どもたちが自分たちの思いや願いを反映していけるように、時間と場所を十分に確保して指導する。  
○健康教育の充実  
・保健学習や学校保健委員会、委員会活動、朝会、集会等の時間をうまく活用して、子どもたちへ健康教育を充実していく。水泳学習の前には「ハイ・ゾーン」について学ぶ時間を設定したり、より良い人間関係を築く上で大切なパーソナルスペースについて指導したりしていく。

**下半期**  
○創立50周年を祝うため、子ども主体の活動を推進  
・PTAの実行委員会(事業部、式典部、広報部)と児童実行委員が中心となって活動を計画し運営していく。(式典・タイムカプセル等)  
○運動の特性を理解した授業改善  
・授業改善に向けて体育の研修を設定し、授業改善に努める。特に各種目における運動の特性を教師が理解し、主運動につながる慣れの運動を行うなど、活動の系統性を意識して、目標を達成していけるように授業計画を工夫していく。  
○体育的行事計画への子どもたちの参画  
・体力アップ集会の計画から運動委員会の子どもたちが関わるなど、体育的行事へ子どもたちが主体的に取り組めるようにしていく。  
○健康教育の充実  
・保健学習や学校保健委員会、委員会活動、朝会、集会等の時間をうまく活用して、子どもたちへ健康教育を充実していく。特に感染症対策に重点を置いて指導し、手洗いの大切さの意識を高めていく。

